

城郭から見た堀尾氏の出雲支配

中 井 均(滋賀県立大学)

◆はじめに

- ・今、お城が面白い ⇒ 姫路城天守がグランドオープン【3/27 に 5 年半におよんだ修理が完成】
- ・天空の城「但馬竹田城」⇒ 年間 50 万人が押し寄せる観光地へ
- ・松江城天守 ⇒ 5/15 に文化審議会より文部科学相へ国宝に指定するよう答申 7/8 に官報告示【国宝 5 城となる】

◆堀尾氏の出雲入国と慶長の築城ラッシュ

- ・関ヶ原合戦は戦国時代最大の軍事的緊張を生んだ ⇒ 合戦の論功行賞による大名配置【新たな居城の築城】
- ・最終戦争「徳川対豊臣」の想定と、国境警備【境目】⇒ 極めて軍事性の高い城郭の築城【慶長の築城ラッシュ】
- ・堀尾吉晴、忠氏父子の出雲入国 ⇒ 慶長 5 年(1600)11 月、月山富田入城【松江築城までの居城】
当時の隣国の状況 ⇒ 伯耆【池田光政】、長門【毛利輝元】、備後【福島正則】
支城の配置 ⇒ 島根県による中世城館跡の分布調査【県内に約 1,000 ヶ所にのぼる分布】
大半が土造りの戦国時代の城館 ⇒ 石垣を伴い、虎口に櫓形を採用した構造の城【織豊系城郭】

◆月山富田城

- ・山陰の戦国大名尼子氏の居城 ⇒ 永禄 9 年(1566)の落城後、毛利氏の出雲支配の拠点となる【福原貞俊(城代)→口羽通良(城代)→天野隆重(城代)→毛利元秋(城督)→毛利元康(城督)→吉川広家(城主)】
- ・山頂部の石垣(段築)、千畳平の石垣(打込接) ⇒ 吉川氏段階【毛利領の東端として慶長初年に構築か】
山中御殿の石垣(打込接) ⇒ 吉川氏と堀尾氏によるもの
- ・里御殿 ⇒ 古くより尼子氏の居館と言われていた【発掘調査により石垣が検出(打込接)】
堀尾氏段階の石垣の可能性 ⇒ 忠氏が山中御殿、吉晴が里御殿【1 城 2 館構造】
松江城の場合 ⇒ 本丸御殿【忠氏】と、上御殿【吉晴】
※筑前福岡城 ⇒ 本丸【黒田長政】と、二の丸御鷹屋敷【黒田孝高】
- ・松江築城後の富田城 ⇒ 支城として存続【吉晴の娘婿堀尾河内が城主として

配置】

※親子観音 ⇒ 堀尾河内の子勘解由(吉晴の孫)の供養塔

◆三刀屋城

- ・三刀屋の位置 ⇒ 出雲のほぼ中央に位置【備後～松江間の幹線上に位置することより、松江築城と同時に支城として整備された可能性】
- ・城郭の構造 ⇒ 城域のほぼ全体が石垣によって築かれている【打込接】
石垣の石材 ⇒ 花崗岩(三刀屋川上流の栗谷)【矢穴技法による割石】
本丸東端の土壇 ⇒ 天守台
※織豊系城郭の 3 つの要素である石垣、礎石建物、瓦 ⇒ 三刀屋城では発掘調査の結果、瓦は出土していない【本・支城体制の差か】
- ・堀尾吉晴の弟掃部が三刀屋に入れ置かれる ⇒ 堀尾氏の家臣団中で最高の石高を有していた
※城跡東山麓に残る「殿様墓」⇒ 宝篋印塔を 2 基収めた 2 基の石廟【堀尾掃部とその子修理の墓と伝えられている】

◆赤名瀬戸山城

- ・赤名瀬戸山の位置 ⇒ 出雲最南西端【備後、石見との国境】
※銀山街道と出雲街道が交差する陰陽交通の要害
- ・城郭の構造 ⇒ 中心部分は石垣によって築かれている【打込接】
石垣の石材 ⇒ チャートか【矢穴技法が認められない(石材の相違)】
山頂曲輪の凹地 ⇒ 穴蔵か【曲輪 I は小規模であり、天守台の可能性も考えられる】
- ・城番として松田左近、中山織部らが派遣される ⇒ 『松田氏系譜』に「吉久(松田左近)賜石州阿加奈城領二万石」とある。
※城跡の北山麓に残る松田左近の墓 ⇒ 五輪塔と石廟(屋根部分か)

◆三沢城

- ・三沢の位置 ⇒ 出雲南東部
- ・城郭の構造 ⇒ 山頂部の山城は普遍的な戦国期山城【出雲最大の国人三沢氏の居城】
※天正 17 年(1589)に三沢為清が毛利氏に属して安芸へ移ると廃城となった
- ・大手の石垣 ⇒ 城の東山腹に構えられた巨大な曲輪(三郭)の櫓形虎口
支城の可能性が考えられる
- ・宝永 2 年(1705)の覚融寺(奥出雲町)の文書 ⇒ 「一、堀尾山城様(氏晴)御代前田丹波殿、堀尾但馬殿亀嵩之城一覽之上ニテ丹後(備後カ)、伯耆之境目自然諸国動乱之節御番衆為被入置為御用意当寺御建立被成竹林三九郎共申仁ニ普請奉行被仰付候之由、」
【「亀嵩之城」が三沢城を指すのか】

※亀嵩城 ⇒ 普遍的な戦国期の土造りの山城で、近世に改修を受けた痕跡は認められない

◆おわりに

- ・「出雲国絵図」に記された「古城」⇒ 江戸幕府が収納した寛永10年(1633)の出雲国絵図(東京大学総合図書館蔵南葵文庫)【居城【末次城】、古城【富田、三刀屋、赤穴、亀嵩】】

古城 ⇒ 元和まで機能していた支城を指す

- ・崩落した石垣 ⇒ 自然崩壊ではなく人為的に破壊された石垣【城割(破城)】
- 元和元年(1615)の一国一城令による廃城に伴う城割の実態を示す
- ・国持大名の新たな領国支配 ⇒ 旧城に一旦入城し、新城の候補地を選定するとともに境目、要衝に支城を築く

筑前黒田氏の筑前六端城制、安芸の福島正則領の支城網などと同様に堀尾氏も本・支城体制によって領国支配を徹底化したことが明らかとなった

※絶家となった関ヶ原直後の堀尾氏による出雲支配の実態を伝える城跡

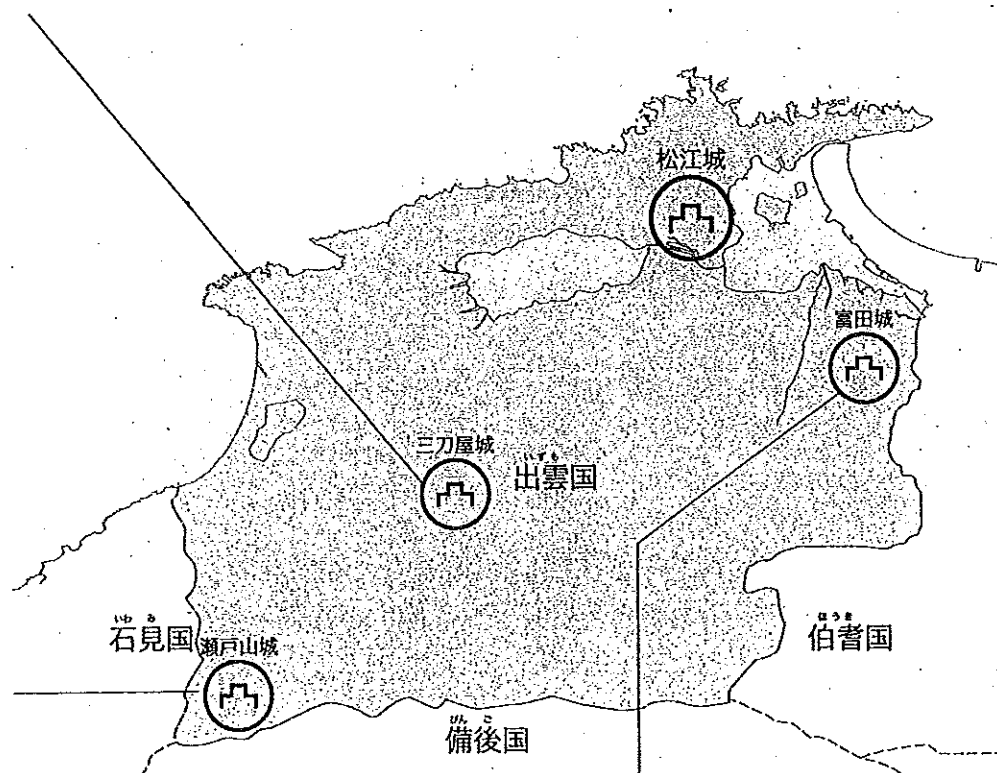


図1 出雲の本・支城配置図(『松江創世記堀尾氏三代の国づくり』)

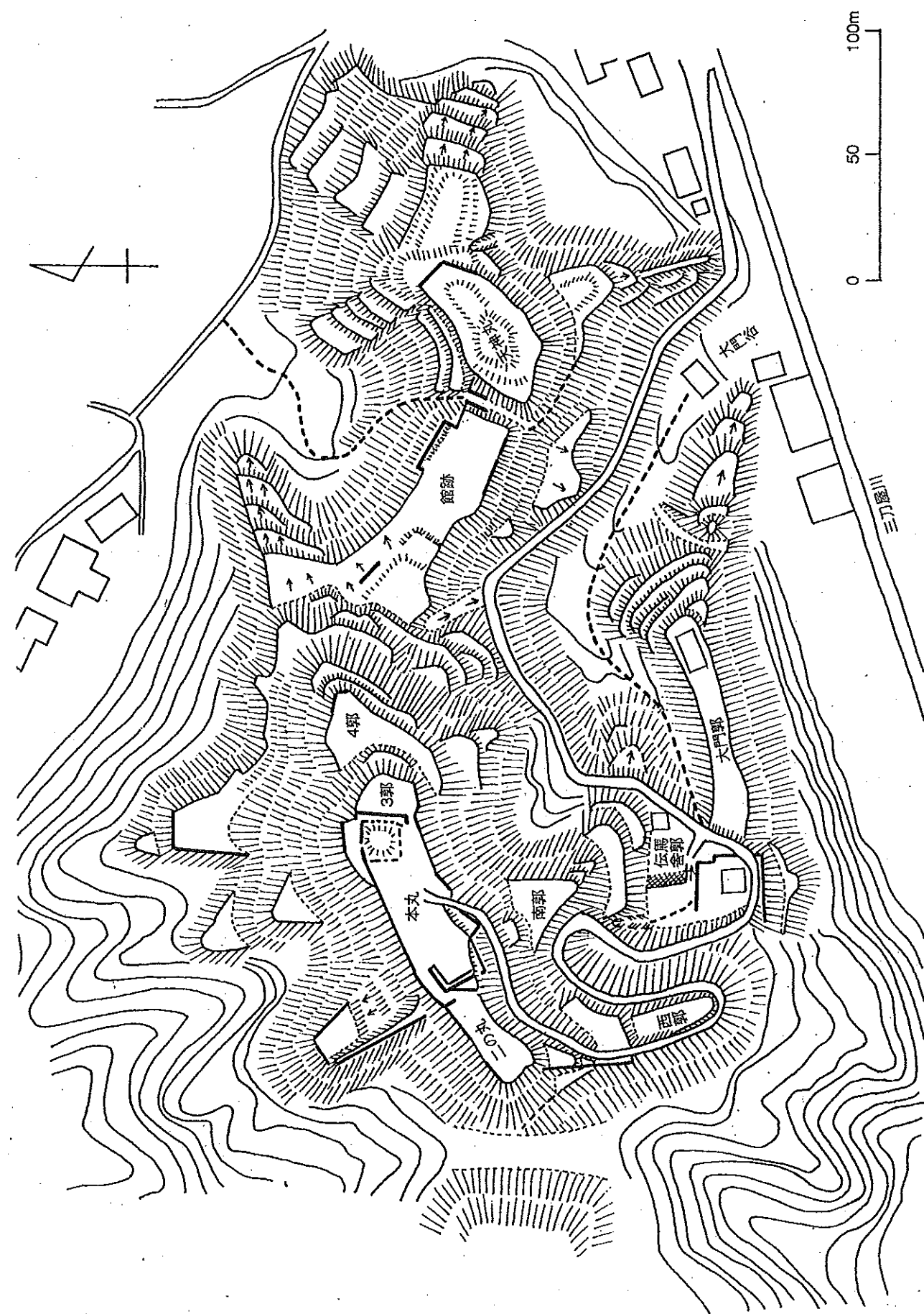


図2 三刀屋城跡概要図(中井均作図)